

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1173700236		
法人名	株式会社ユニマツそよ風		
事業所名	行田ケアセンターそよ風		
所在地	埼玉県行田市天満8-29		
自己評価作成日	平成25年5月31日	評価結果市町村受理日	平成26年6月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/11/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/11/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成25年6月6日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

お客様がそれぞれに共同生活の場においてその人らしさを表現できるような、明るい雰囲気づくりに努めている。個性や特徴をつねに把握し、一人ひとりの思いに沿った支援を行っている。職員は誠意のある対応をとることで、お客様・ご家族双方から信頼していただける関係を構築できるよう、心がけている。日常生活においては、施設前の公園への散歩や、施設車両を利用したドライブ、近くのスーパーや商店へ買い物へ出かけるなどして、気分転換を図っていただけるようにしている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

・職場内のチームワークの良さと、職員それぞれの意見・提案が取り入れられ、自信と余裕を持った利用者によりやさしい介護が実践されている。また、利用者の重度化に伴い、それぞれの状態に応じた対応ができるよう職員のレベルアップを図り、医療的な知識なども身に付ける取り組みも行われている。  
 ・ご家族のアンケートでも、「5月にこちらからの提案で、どのような食事が出されているかと思い、食事会を催していただきました。実際の食事や過去の写真などを見せていただき、内容、味、量共に安心しました」、「本人の我が儘もある程度受け止めていただき、感謝しています」などの高い評価が得られ、信頼度の高さがうかがわれる。  
 ・目標達成計画の達成状況については、災害時の近隣住民の協力体制づくりのため、合同訓練の呼びかけを継続的に行われている。また、利用者の食事献立表を家族に広報したことで、家族の関心が高まり、試食会が行われるなど、事業所への信頼度のアップにも繋がったことから、目標が達成されている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	お客様と地域の人々がかかわりを持つ事の重要性を自覚し、それに基づく理念について職員間で話し合いを持ち、理解したうえで具体的ケアに繋げている。	「やさしい笑顔、明るい挨拶、より良い環境作り」として生活に密着した事業所独自の理念が創られ、一日一日を楽しく過ごしていただくケアが実践されている。朝礼等で復唱され、全職員への周知にも努められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会・保育園等、地域の皆様より行事のご案内をいただき、参加させていただいている。外出した際には、積極的に近隣の方へ声かけを行い、コミュニケーションをはかるようにしている。	事業所の記念行事に地域の方々に参加いただき、自治会の夏祭りや保育園の運動会、バザーに出かけたり、小学生の訪問など、地域との相互交流が図られている。また、自治会の新年会に職員が出席し、情報交換をするなど、地域の一員として受け入れられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ケアの専門的知識・実践法を、地域の方々からの相談に生かしている。実習生の受け入れを行い、介護業界の人材育成への貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前の会議での課題や検討項目についての協議内容の報告。さらに話し合いの中から、サービスの向上に生かしていくようにしている。	多くの家族の参加があり、食事の写真閲覧により、事業所の取り組みを紹介したり、季節ごとの感染症についての勉強会も行われている。また、他の事業所の職員も参加され、重度化やターミナルケアについての情報交換にも取り組まれている。	運営推進会議の内容は充実されているが、開催回数が未達の為、防災訓練や食事の試食会、家族会などのイベントと同時に開催するなどして、基準省令に基づく年6回の開催が実現されることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者へ運営推進会議などで施設の実情やお客様の暮らしぶりを伝えたり、市役所へ訪問し、新入居者の相談にのっていただいたりと、協力関係を築く努力をしている。	市担当者との連携が図られ、運営推進会議にも出席いただき、会議中だけでなく、会議後の貴重な時間帯においても様々な具体的なアドバイスを得られている。運営推進会議の会議録も届けられ、良好な関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本社・支社開催の勉強会の内容を事業所へ持ち帰り、会議などで話し合う場をつつて情報の共有化を図っている。施錠については、本社の指示で安全確保の観点から強化されたところもある。	身体拘束については職員にも周知されており、言葉による拘束を含め、利用者の行動を制限しない方法について日ごろから話し合われている。お互いの気付きができるよう声かけを行い、職員間の認識の差は研修により統一が図られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本社・支社開催の勉強会の内容を生かし、会議やミーティングの場で関連法等を学ぶ機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会へ参加し、法制度について学ぶ機会を確保している。報告書をもとに、ミーティングの場などで職員へ報告、情報の共有化につとめている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけて必ず契約書・重要事項説明書の全てに目を通していただき、丁寧な説明をさせていただいている。疑問や質問に随時答え、納得の上同意をいただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会の際に意見・要望、質問などを気軽に家族に言っていただける雰囲気作りにつとめている。お客様の意見には常に耳を傾け、それらの情報をミーティングの場にて話し合い、サービス向上につとめている。	利用者・家族からの要望は申し送りノートを利用するなどして、職員間で共有され、迅速に対応できる体制が整えられている。家族から食事の試食の要望を受け、試食会を開催し、事業所への理解を深めるなど、利用者満足度の向上に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議・個別面談などで意見を吸い上げ、日頃の会話の中からアイデアなどを運営やケアに取り入れている。	職員からは日常のケアの方法への意見・提案が出され、食事形態や排泄介助、また腰痛の利用者には負担を少なくするためベッドの位置を工夫するなどの取り組みが行われている。その他、行事やレクリエーション内容などにも活発な意見が出されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は定期的に個別面談を行っている。現場へも足を運び、職員の業務に関する考え・悩みなどを把握すべく個々への対応し、ストレスの軽減・向上心の持続を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や外部研修へ職員が参加できるようにし、その研修内容が共有できるよう報告書を作成、会議・ミーティングの際、意見交換の材料として使用できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	支社内のグループホーム同士で隔月ベースの意見交換会を年間計画のもと開催。相互訪問し、勉強会を実施してサービスの向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に直接訪問してご本人の要望を聞き取り、どのような不安を感じているか、どのようなサービスを望んでいるかを把握し、安心して生活していただけるよう、よい関係を築く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談および実地調査の際、ご家族の苦勞・不安な点を聞き取り、どのような生活・対応を望んでいるかを把握してサービスへ生かし、信頼関係を構築する努力を行う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の見学を勧めており、生活環境やサービス・支援の内容を納得した上で利用していただけるようにしている。受け入れが困難と判断される場合は相談に応じ、他のサービスへと繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様の持っている能力を見極め、能力を発揮していただく。共に生活していることを実感していただけるようなコミュニケーションを欠かさないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お客様の日常生活の中で気付いたことを記録として残し、情報の共有化に努める。職員とご家族が一体となってお客様を支えている協力体制を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活歴を生かし、友人・知人との交流関係を継続できるよう、連絡を取り持つ。地域とのつながりを大事にし、外出などができるよう支援していく。	友人、知人の訪問が多く、継続的に来ていただけるよう対応に努められている。入居前の行きつけのスーパーへの買い物、家族の協力により馴染みの美容院に通い続ける利用者もおられ、馴染みの場所へ出かける支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士で楽しく、充実した生活が送れるように配慮する。孤立するお客様が出ないように、良い関係を構築できるように職員が間に入り、支援する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了し他のサービスへ移られた場合には、先方へこれまでのサービスの情報を提供している。先方又はご家族に迷惑のかわからないよう、了解を得た上で、お客様と共に面会に行く事もあった。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でお客様それぞれの望みや思いをくみとって、できるかぎり要望に応えられるように気をつけている。	今までの暮らしぶりを家族や兄弟、ケアマネジャーなどから聴くことで、思いや意向の把握に努められている。食べ物の好みなどを直接伺うとともに、食べ方を見ながら好き嫌いを把握するなど、食事の提供などに反映されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お客様・ご家族からの聞き取りを行い、生活環境・生活歴についての情報を収集、ケアに生かす。介護・医療サービスを提供していた事業所・病院、ケアマネジャーから情報提供をしてもらう場合もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を注意深く観察し、お客様それぞれの生活リズム・身体状況を把握することにつとめている。ケアに生かすべく、ミーティング・会議の際に情報交換を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	お客様の思い・家族の要望を介護計画に反映できるよう、聞き取りなどで常に情報収集を行う。ミーティング・会議で職員が意見を出し合い、より良い介護計画を作成できるように協力している。	利用者・家族の意見、要望、心配などに耳を傾け、情報を取り入れた介護計画作りに努められている。現場の職員にも理解しやすく、実践できる具体的な内容となっており、面会時などに、内容の説明と同意確認も行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の様子、介護計画に則した援助の実施状況、状態の変化などを記入。介護計画の見直し、評価に生かしている。ケアの変更点は、申し送りノートへ記載し、情報をすぐに確認し共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様の状態・ご家族の事情その他、状況に応じて必要な支援を柔軟に対応出来るようにしている。他の部署と連携してレクリエーションを行い、サービスの充実を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会のイベントやボランティアとの交流などの地域の支えを頼りに、生活の質の向上に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の定期往診(内科・歯科)により医療サービスを受けられる方、家族対応にて以前からのかかりつけ医の診察を受けられる方、本人の希望や家族のニーズに合わせた受診方法をとっていただいている。	家族協力による受診時には、状況記録を持参いただいたり、緊急時には職員が付き添い直接説明を行うなど、臨機応変な対応により、適切な医療が受けられるよう支援が行われている。併設のデイサービスの看護師からのアドバイスも随時受けられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	血圧・体温測定や表情観察、食事・排泄量などから体調の変化を察知し、急変のある場合デイサービスの看護師へ報告。協力を仰ぎ、適切な診察を受けられるようアドバイスを受け、その後の対応に生かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関側へ支援の状況など利用者の情報を提供。時折面会に出向き、経過の情報を収集し、相談・情報交換の窓口となる人物とのパイプづくりを行っていく。情報共有することで早期退院の一助となることを目指す。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階より重度化した場合・終末期に、事業所としてできること・難しいことを説明し、本人・家族がどのようにしていきたいかを引き出し、より良い方向を見出すアドバイスを行う。方針・意向については随時確認を行い、それに合わせた支援に取り組む体制を準備する。	運営推進会議で終末期について取り上げられ、今後の予想について、お互いにどのようにしていくか、今まで話題にならなかった利用者・家族との話し合いをする機会となっている。家族にも重度化について考えるきっかけ作りがなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時の対応マニュアルを参考に、ミーティング・会議の際に随時確認するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防・避難訓練を消防署員立会いのもと行っており、地域の方にも参加を呼び掛けている。すべての職員が非常災害時の対応ができるように参加する職員については持ち回りとしている。	避難訓練には全職員が持ち回りで必ず参加するよう取り組まれ、メンバーによってレベルが下がらないよう努められている。避難口、経路や車椅子利用者への対応、外の避難場所など、消防署のアドバイスを受けながら確認、検討がなされている。	災害発生時には近隣住民をはじめ周囲の協力が不可欠であり、近隣との合同避難訓練への参加を呼びかけ、また、運営推進会議のときに避難訓練を実施するなどして、協力体制作りを進めていく取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	支援が必要な際に、お客様の誇りを傷つけないような言葉づかい、心遣いに気をつける。プライバシーに十分配慮した対応を行っている。	排泄の失敗時などでは、自尊心を傷つけることのないように、周囲に気付かれない声かけや居室、浴室へのさりげない誘導を行うなど、利用者一人ひとりを尊重し、プライバシーにも配慮されたケアが実践されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様の望みや思いを気兼ねなく話せるような雰囲気づくり・関係づくりに配慮する。意思決定が難しい場合には選択肢を用意し提案、自身で意思の決定ができるような手助けを行う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムやペース、意思を尊重しそれに合わせた支援や対応をおこなっている。業務もそれに合わせて柔軟に変更するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的にはお客様の意向で着替え・整容をしていただくが、自己決定の難しいお客様・支援が必要なお客様については職員がアドバイスや援助を行うようにしている。外出時・行事の際には職員とおしゃれ・お化粧をし、満足を得ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	セレクトメニューからお客様の好みのお食事を選んでいただくようにしている。食事の準備、後片付けをともにおこない、職員・お客様で食卓を囲み、食事を楽しむ。	新鮮な季節の食材などが提供され、利用者には美味しいと大変喜ばれている。また、家族への献立表の配布や運営推進会議で食事の写真を閲覧していただいたり、さらに家族による試食会も実施され、理解を深めていただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が考えてつくられた栄養バランスの整った食事を食べやすい形で提供し、摂取量を把握している。摂取量の少ない利用者様については、好みのものにメニュー変更を行う。水分量についても把握し、体調をくずさないように注意をしている。水分についても好みに合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは声掛け・見守りを基本としているが、十分にケアできない方には援助をおこない、誤嚥性肺炎のリスクの低減に努めている。夜間は入れ歯を管理させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を毎日記録しており、パターンを把握し時間で声掛けやトイレ誘導を行い、失敗を減らすように配慮している。	自立を目指し、トイレの場所がわからなくて失敗してしまう利用者には、仕草や行動を観察し、声かけ誘導を実施することで、安心してトイレで排泄ができるよう支援が行われている。また下剤の服薬時間なども職員が話し合っており、利用者の負担にならないよう取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分と繊維質の多い食物を提供している。日常的に体を動かす機会を作り、腸の蠕動運動の活性化をうながす。排泄表からパターンを把握し、必要な方には下剤の服薬支援を行う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴したいときにゆっくりと入浴を楽しんでいただけるよう、お客様の希望を尊重し援助を行う。声かけし勧めることはあるが、無理に入浴していただくことはしていない。	個々の意志を尊重し、利用者のペースに合わせた入浴支援が行われ、好きな時間に入浴できたり、状況に応じて清拭へ変更などの対応もなされている。入浴前のバイタルチェック、時計を見ながら湯船に浸かる時間を把握するなど、安全管理にも努められている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動をうながし、生活のリズムを整えられるように努めている。ゆっくりとした休息や睡眠がとれるよう、一人ひとりに合わせた支援をおこなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルで処方箋を管理し、職員が薬の内容・効能を確認できるようにしている。服薬の管理はチェック表を用い、誤薬・飲み忘れのないようにしている。服薬後の状態変化にも注意して様子観察を行い、記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や買い物、ドライブなど一人ひとりの嗜好にあわせた活動に参加していただき、気分転換をはかっていただく。生活歴と認知度に則し、役割を持って生活していただけるよう、支援をおこなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望に応じて、散歩や買い物同行などに出かけていただいている。外出希望の内容によっては、ご家族へ連絡し、協力を得られるようにしている。	隣接する公園へ散歩に行くなど、日常的に外出支援が行われ、外出が困難な状態でも、ベランダに出る建物を一週するなど、外気浴での気分転換をしていただいている。家族の理解と協力が得られるよう、家族会で外出時の写真を見ていただき、希望に沿った個別支援に努められている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設預かりとさせていただいているが、買い物の際は必要な額を手渡し、自分で支払う事で満足を得ていただく配慮をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族・ご友人に気軽に電話できるよう、声かけや雰囲気作りをしている。年賀状などの季節の挨拶を手紙でやり取りできるよう、支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明を出来るだけ暖かみのあるソフトな色・明るさの物とし、刺激を抑えている。手作りの飾り付けをお客様と共に考えながら配置するなど、家庭的で季節感のある雰囲気作りをしている。	天窓が設置され、陽が入るよう工夫をされている。また、過剰な飾りつけは行わず、すっきりした家庭的な雰囲気の落ち着きある共用空間作りがなされている。利用者同士のトラブルなどにも配慮され、それぞれの居場所の確保がなされ、居心地良く過ごされるよう配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家具の配置などを工夫する事で、仲の良い人同士でリラックスできる環境作りをしている。同様に一人で過ごす際に落ち着けるような配慮もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お客様本人が自宅等で使い慣れた物を持ち込んで居室にて使用してもらうことで、その人らしい住環境作りを支援している。	家族の協力により、畳やコルクボードを敷き詰め、和布団を使用するなど、落ち着いて過ごしていただく工夫がなされている。使い慣れた家具や神棚、遺影などを持ち込まれ、自宅の雰囲気の再現により、不安や困難を招かないよう支援が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険な物を置かない事はもちろん、お客様の状態に合わせた環境を作るよう、職員話し合いのもと整備している。		